

平成29年 近畿地区の造船業・船用工業の現況

近畿運輸局海事振興部

I. 造船業

1. 造船業の概要

近畿運輸局管内の造船事業者は、平成30年3月末現在で55社57工場です。

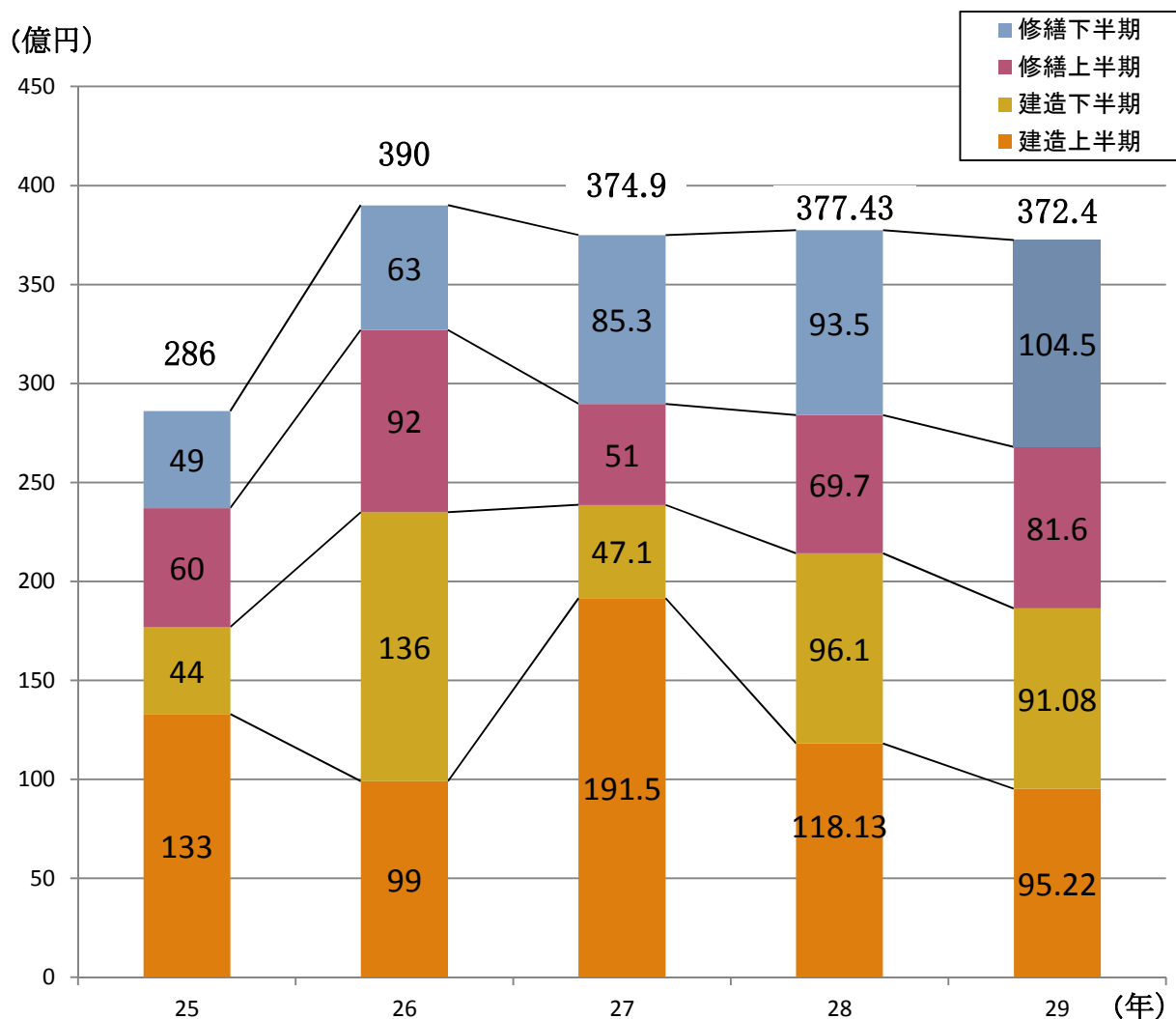
平成29年の総売上高(建造及び修繕の合計)は372.4億円で前年と比べると1.33%の減少となりました。

内訳としては建造で186.3億円(前年比13.04%減)、修繕で186.1億円(前年比14.03%増)となりました。

全国計では、平成29年の総売上高は1兆6,322億円で前年と比べると2.0%増となりました。

内訳としては建造で1兆5,282億円(前年比1.0%増)、修繕で1,040億円(前年比18.3%増)となりました。

図 I-1 総売上高の推移



※20トン未満及び長さ15m未満の船舶の実績についても計上

※総トン数を有しない船舶(艦艇等)の実績についても計上

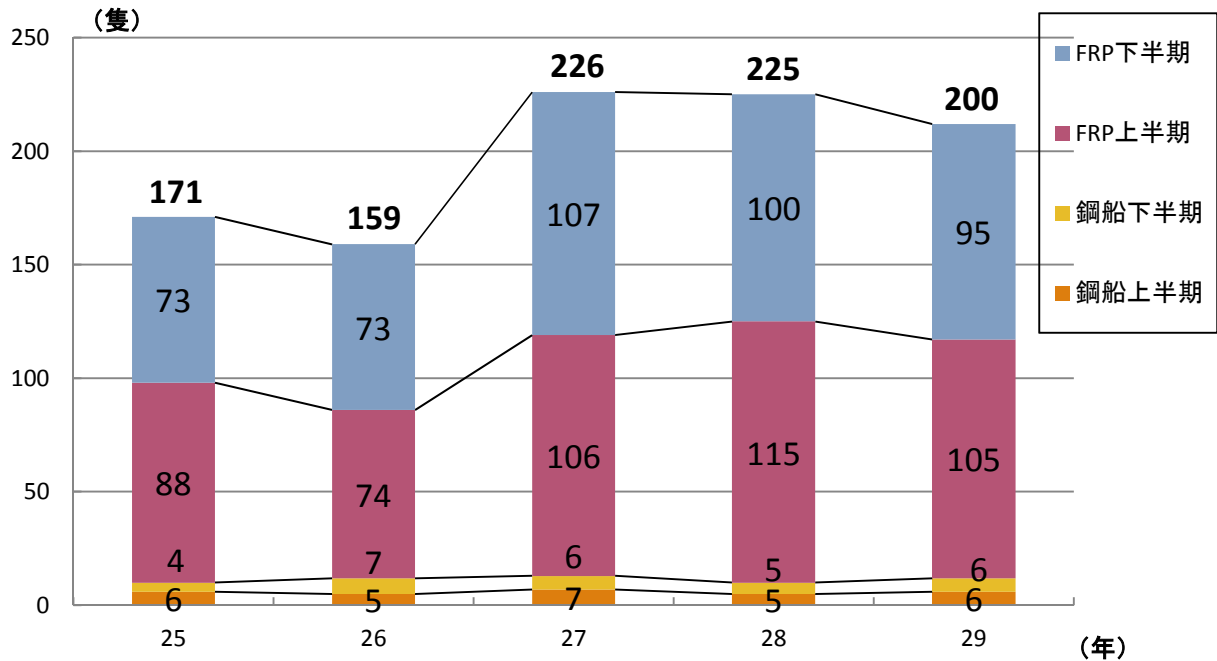
本資料では近畿運輸局管内(大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)の実績を示している。
(兵庫県については神戸運輸監理部が管轄)

2. 建造実績

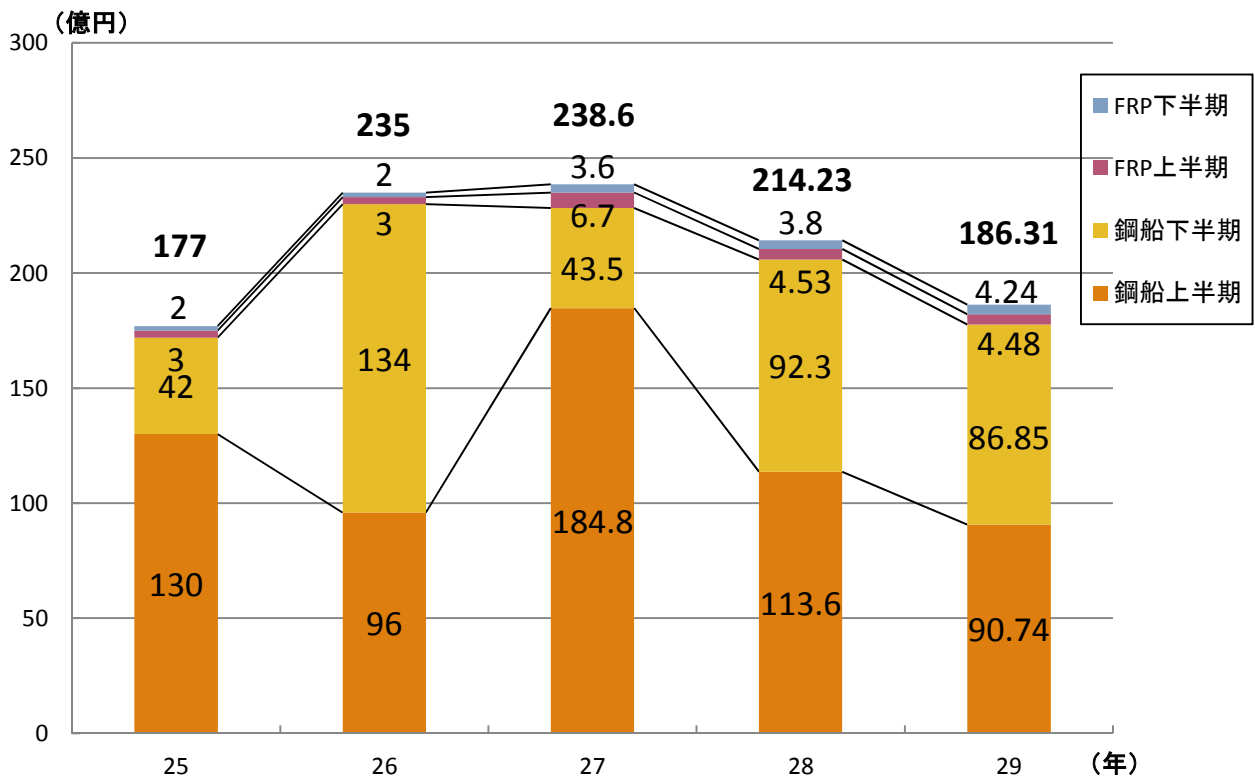
平成29年の建造実績は、212隻、186.31億円で、前年と比べると隻数で5.8%減、売上高では13.0%減となりました。

内訳としては、FRPは200隻、8.72億円(前年比7.0%減、前年比4.7%増)で、鋼船は12隻、177.59億円(前年比20.0%増、13.7%減)でした。

図 I - 2 建造隻数及び売上高の推移



※FRPの数字についてはアルミ船及び木船も含む



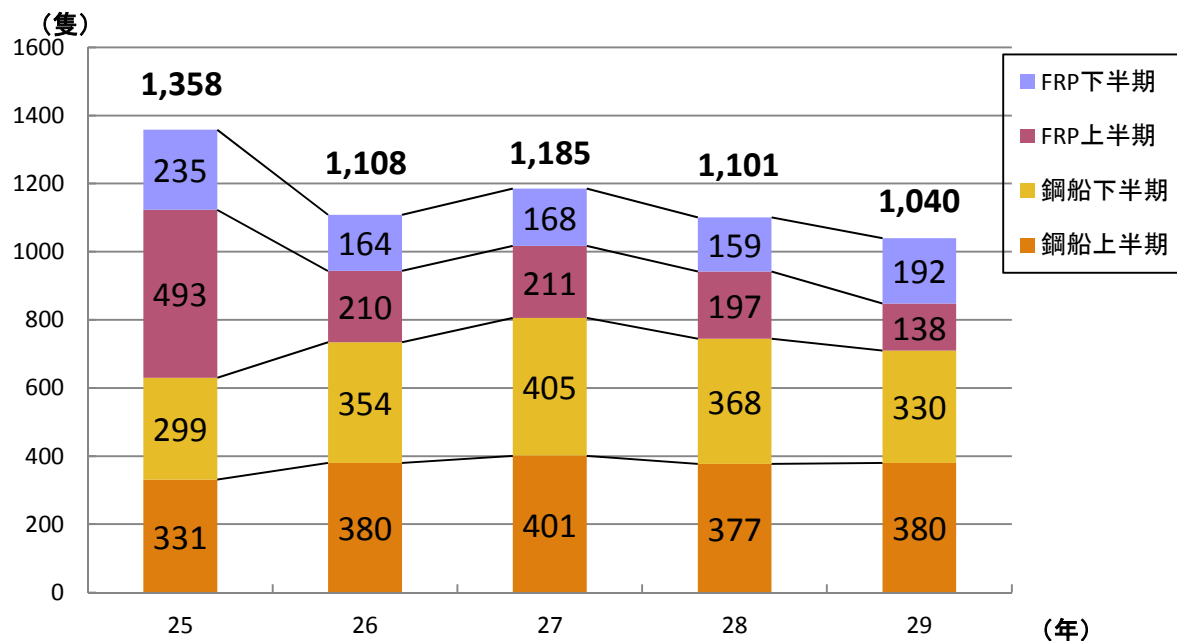
※FRPの数字についてはアルミ船及び木船も含む

3. 修繕実績

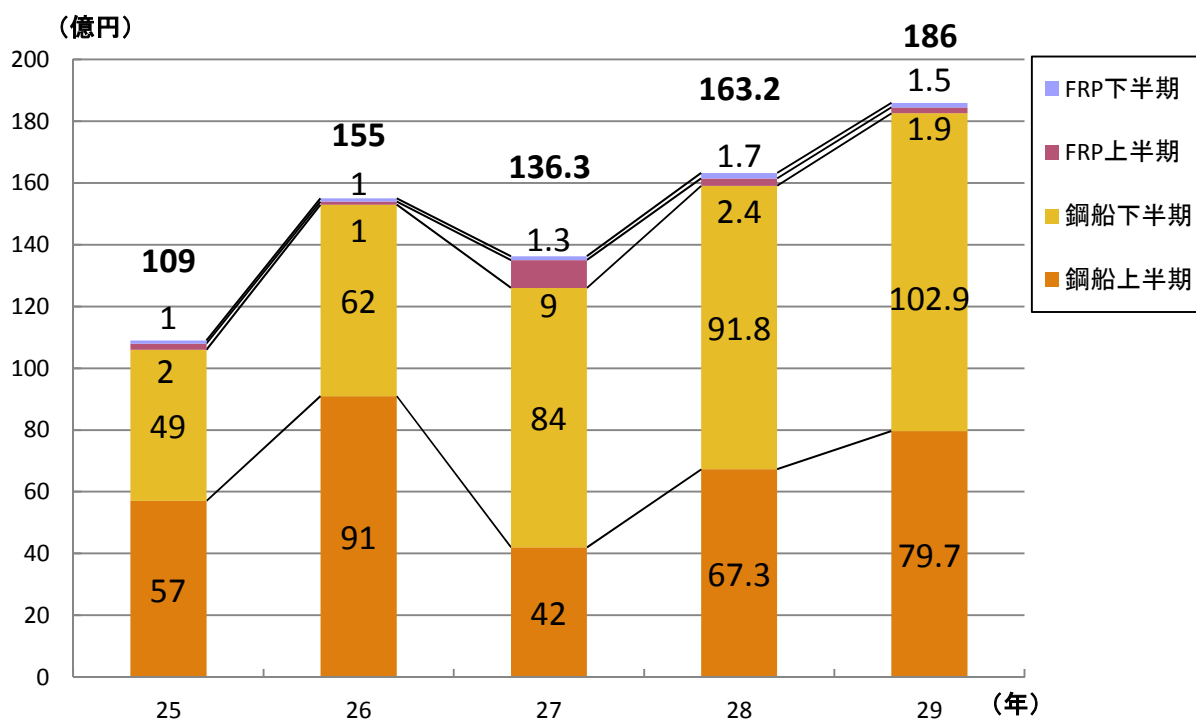
平成29年の修繕実績は、1,040隻、186億円で、前年と比べると、隻数で5.5%減、売上高で14.0%増となりました。

内訳としてはFRPは330隻、3.4億円(前年比7.3%減、17.1%減)で、鋼船は710隻、182.6億円(前年比4.7%減、14.8%増)でした。

図 I - 3 修繕隻数及び売上高の推移



※FRPの数字についてはアルミ船及び木船も含む



※FRPの数字についてはアルミ船及び木船も含む

Ⅱ. 船用工業

1. 船用工業の概要

近畿運輸局管内の船用工業事業者は、平成29年12月末現在で123社125工場です。

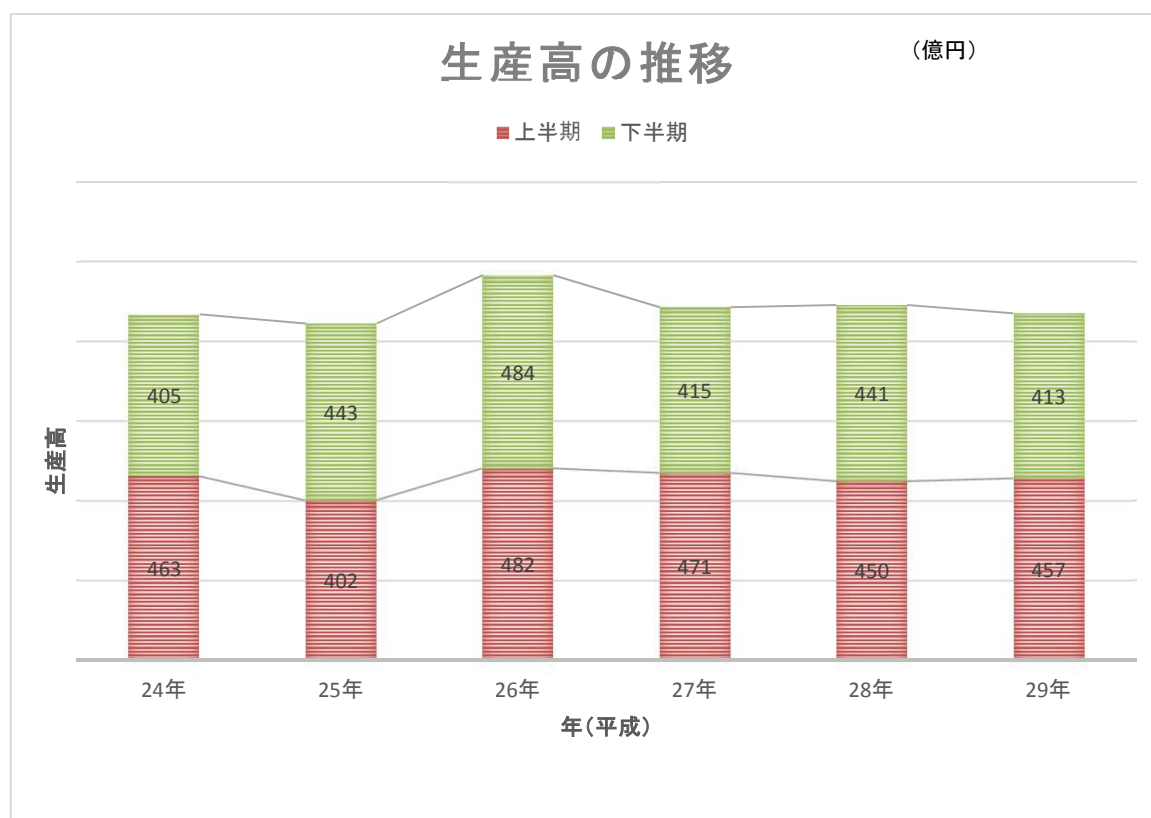
平成29年の総生産高(生産及び修繕の合計)は910億円で前年(平成28年実績950億円)と40億の減少となっております。

2. 生産実績

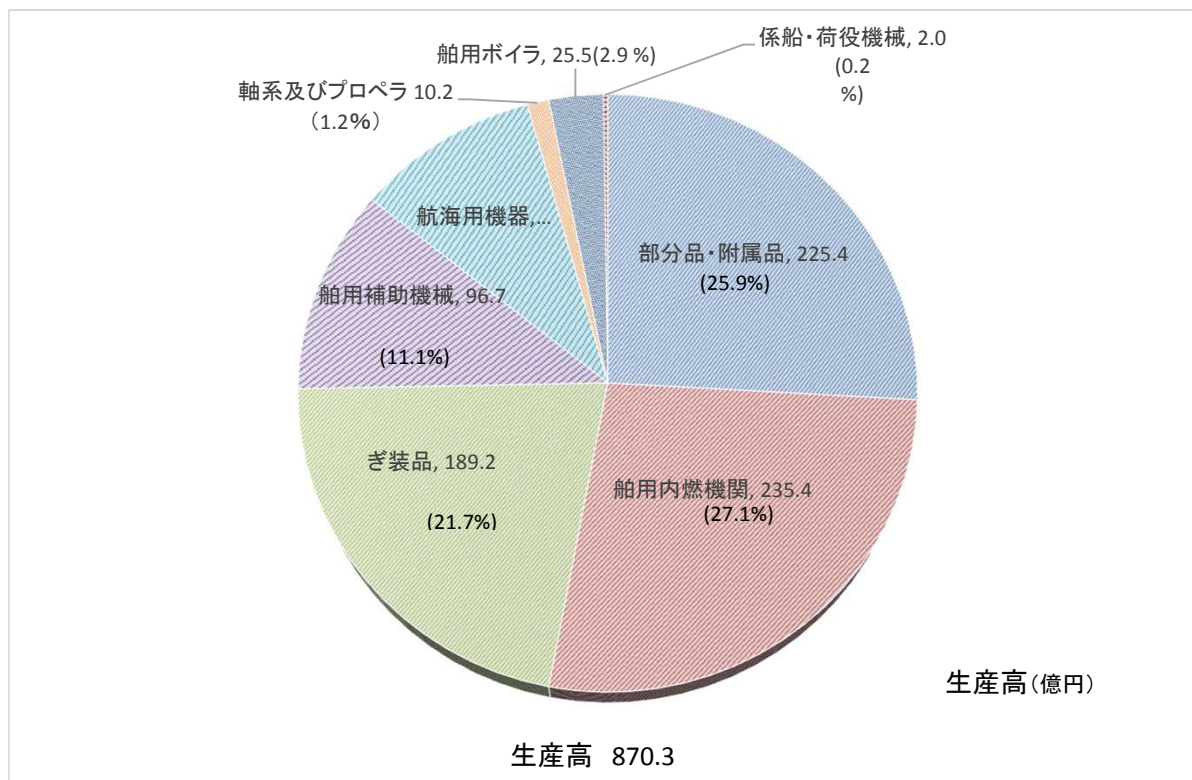
平成29年の生産高(修繕高除く)は870億円(前年比2.4%減)で、内訳としては船用内燃機関は前年比約3.4%、船用補助機械は約4.2%、ぎ装品は2.4%、軸系・プロペラは約52.8%の減少で、船用ボイラが約24%、航海計器が約6.8%の増加となっております。軸系及びプロペラの生産高の減少が大きく響いています。

品目別生産高で見ると、船用内燃機関が235.4億円と最も多く、次いで、部分品・付属品が225.4億円、ぎ装品が189.2億円、船用補助機械が96.7億円、航海用機器85.9億円となっており、これら5品目で全体の約96%を占めています。

図Ⅱ-1 生産高の推移(平成24年-平成29年)(管内)(修繕除く)



図Ⅱ－２ 品目別生産高及び構成比(平成29年)管内(修繕除く)



3. 修繕実績

平成29年の修繕高は約40億円で、前年(平成28年実績約59億円)と比べると31.2%の減少となりました。
品目別で見ると、船用内燃機関が約17.8億円、船用補助機械が約20.4億円となっており、この2品目で修繕高の約95%を占めています。

図Ⅱ－３ 品目別修繕高及び構成比(平成29年)管内

